

第8回ワールドゲームズの成果と課題

師岡 文男

《研究ノート》

第8回ワールドゲームズの成果と課題

師岡 文男

1. はじめに

2009年7月16日(木)～26日(日)の11日間、台湾第2の都市、高雄市で「第8回ワールドゲームズ2009高雄大会」が開催された。ワールドゲームズ(World Games)とは、国際スポーツ団体総連合(General Association of International Sports Federations:略称GAISF-1967年創立、2009年3月にSportAccordに改名:www.sportaccord.com)に加盟している国際競技団体(IF)の統括している種目の中で、オリンピックに採用されていない種目を集め、4年に1度、夏季オリンピックの翌年に開催される世界のトップアスリートによる国際的総合スポーツ競技大会である。国際ワールドゲームズ協会(International World Games Association:略称IWGA:www.worldgames-iwga.org)の主催で1981年から開始されたワールドゲームズは、1989年の第3回大会から国際オリンピック委員会(IOC:International Olympic Committee)の後援を受けるようになったが、1980年のIWGA創設時から、巨大化、商業主義化、勝利至上主義化したオリンピックの反省に基づき、次の4つを特色として打ち出している。(1)開催都市は既存の施設を使用することが原則で、正式競技のすべてを実施できなくても良い、(2)参加選手は国ではなく、各競技のIFが世界最高レベルの選手を選び、その選手が所属する各国の競技協会に派遣を要請する、(3)選手宿舎を国別ではなく競技別としたり、大会期間中にワールドゲームズ・パーティーを開いて選手間の国際交流を促進する、(4)世界一を競う公式競技と公開競技の大会と共に、一般市民の参加を求めるスポーツイベントや文化イベントなどを実施する。

新たに施設を造る必要がないため、2001年の第6回大会を開催した秋田ワールドゲームズ2001組織委員会(AOC)の支出は約23億円で、オリンピック大会と比較すると驚くほど少額であった。しかし、将来的にオリンピック大会を開催する可能性が極めて低い台湾にとってワールドゲームズは、オリンピックに替わる一大国際イベントであり、過去7回の大会ではなかった4万人収容のメインスタジアムや1万5千人収容のアリーナを新たに建設したり、台北-高雄間の新幹線建設、高雄市内に初の地下鉄敷設などインフラ整備事業にも多額の予算が投じられた。メインスタジアムの建設費だけでも47億9,500万ニュー台湾ドル(NTD)(138億2,300万円)が支出され、大会運営費も24億NTD(約69億1,900万円)と秋田大会の3倍の費用が投じられた。大会運営費の50%は台湾政府が負担し、46%は高雄市が、4%は大会組織委員会が負担した。

多額の開催経費がかかり、政治の影響を受けやすいオリンピック大会の反省から生まれたワールドゲームズの理念も少しずつ変化し、文字通りオリンピック大会は有名大都市、ワールドゲー

ムズは地方都市での開催、と経費の違いはあるものの良い意味でも悪い意味でも「第2の五輪」になってきている。次回2013年第9回ワールドゲームズの大会は、2016年のオリンピック大会同様初の南米での開催となるが、オリンピック大会がブラジルの大都市リオであるのに対し、ワールドゲームズはコロンビアのカリ市に決定している。

本レポートでは、第8回ワールドゲームズ高雄大会についてのIWGA・日本ワールドゲームズ協会(JWGA)・大会組織委員会(KOC)の発行資料・ホームページ、テレビ・新聞の報道、関係者へのインタビューなどをもとに、第8回ワールドゲームズのデータと課題をまとめ、研究資料を作成することを目的とする。

2. 参加国

2000年10月27日、IOCとIWGAが「IOCは各国オリンピック委員会(NOC)がワールドゲームズに参加する各国代表選手団を支援することを奨励する」など9項目が盛り込まれた「相互協力に関する覚書」に調印して以来、ワールドゲームズに対する関心は年々高まってきている。今回の大会には、103の国と地域から26公式競技・5公開競技に2,908名の選手(選手所属国は84カ国)と1,583名の役員、計4,491名が参加した。この国・地域数は、冬季オリンピック大会を上回る数である(表1)。

開会式では、IOCの猪谷千春副会長(日本)が挨拶し、IOC委員、SportAccord役員、IF役員、NOC役員などが出席した。ワールドゲームズ競技からオリンピック競技になったスポーツが8競技(バドミントン、野球、ソフトボール、テコンドー、トランポリン(ソロ)、トライアスロン、ビーチバレーボール、ウエイトリフティング(女子))あり、2012年のロンドン五輪の新競技の候補にワールドゲームズ競技のスカッシュ、空手、ローラースポーツ、ソフトボール、7人制ラグビーがとりあげられ、最終的に7人制ラグビーが採用されるなど、ワールドゲームズに対する関心は年々高まっている。アフリカからの参加がまだ少ないが今後改善されていくであろう(表2)。

表1 ワールドゲームズの開催状況

| 回 | 開催年 | 開催地 | 競技数(公式・公開) | 参加選手数(国・地域) |
|---|------|--------------|------------|-------------|
| 1 | 1981 | サンタクララ(アメリカ) | 16(16・0) | 1,265名(9) |
| 2 | 1985 | ロンドン(イギリス) | 21(21・0) | 1,550名(57) |
| 3 | 1989 | カールスルエ(西ドイツ) | 19(17・2) | 1,965名(49) |
| 4 | 1993 | ハーグ(オランダ) | 26(22・4) | 2,275名(49) |
| 5 | 1997 | ラハティ(フィンランド) | 29(24・5) | 1,725名(75) |
| 6 | 2001 | 秋田(日本) | 31(26・5) | 2,193名(93) |
| 7 | 2005 | デュイスブルク(ドイツ) | 32(26・6) | 3,205名(93) |
| 8 | 2009 | 高雄(台湾) | 31(26・5) | 2,908名(84) |

表2 大陸別選手参加国数

| 大陸名 | 参加国・地域数 |
|-------|---------|
| アフリカ | 7 |
| アメリカ | 15 |
| アジア | 16 |
| ヨーロッパ | 43 |
| オセアニア | 3 |
| 計 | 84 |

表3 国別参加選手数ベスト7

| 参加国・地域名 | 選手数 |
|---------|------|
| 中華台北 | 300人 |
| ロシア | 164人 |
| 日本 | 160人 |
| 英国 | 146人 |
| アメリカ | 146人 |
| ドイツ | 145人 |
| フランス | 138人 |

表4 ワールドゲームズの公式競技と公開競技の変遷

| 第1回大会 1981 Sanata Clara (U.S.A.) | 第2回大会 1985 London (U.K.) | 第3回大会 1989 Karlsruhe (Germany) | 第4回大会 1993 The Hague (Netherlands) |
|---|-----------------------------------|---|---|
| 〈公式競技 15〉 | 〈公式競技 20〉 | 〈公式競技 17〉 | 〈公式競技 21〉 |
| バドミントン | | | |
| 野球 | | | |
| テコンドー | テコンドー | テコンドー | テコンドー トリアスロン |
| ボディビル | ボディビル | ボディビル | ボディビル |
| | ブルスポーツ | ブルスポーツ | ブルスポーツ |
| ボウリング | ボウリング | ボウリング | ボウリング |
| キャスティング | キャスティング | キャスティング | キャスティング |
| | フィールドアーチェリー | フィールドアーチェリー | フィールドアーチェリー |
| フィンスイミング | フィンスイミング | フィンスイミング | フィンスイミング |
| | フィストボール | フィストボール | フィストボール |
| 空手 | 空手 | 空手 | 空手 |
| | コーフボール | コーフボール | コーフボール |
| | ライフセービング | ライフセービング | ライフセービング |
| | ネットボール | ネットボール | ネットボール |
| パワーリフティング | パワーリフティング | パワーリフティング | パワーリフティング |
| ラケットボール | ラケットボール | | ラケットボール |
| ローラースポーツ | ローラースポーツ | ローラースポーツ | ローラースポーツ |
| ソフトボール | ソフトボール | | |
| | サンボ | | サンボ |
| トランポリン* | トランポリン* | トランポリン* | スポーツアクロ体操* |
| 綱引き | 綱引き | 綱引き | トランポリン* |
| タンブリング* | タンブリング* | タンブリング* | 綱引き |
| 水上スキー | 水上スキー | 水上スキー | タンブリング* |
| | | | 水上スキー |
| *体操競技各種目 | | | |
| 〈公開競技 0〉 | 〈公開競技 0〉 | 〈公開競技 2〉 | 〈公開競技 4〉 |
| | | 合気道 | 合気道 |
| | | バーンゴルフ | 綱引き(女子) |
| | | | 水上スキー(ベアフット) |
| | | | 馬術(ボルティンク) |
| 選手数 1,265名 | 選手数 1,550名 | 選手数 1,965名 | 選手数 2,275名 |

| 第5回大会 1997 Lahti (Finland) | 第6回大会 2001 Akita (Japan) | 第7回大会 2005 Duisburg (Germany) | 第9回大会 2009 Kaohsiung (Taiwan) |
|---|---|--|---|
| 〈公式競技 22〉 | 〈公式競技 22〉 | 〈公式競技 26〉 | 〈公式競技 26〉 |
| ビーチバレーボール | | | |
| | 7人制ラグビー ビリヤード ボディビル ブルスポーツ ボウリング キャスティング ダンススポーツ フィールドアーチェリー フィンスイミング フィストボール エアロビクス* | 7人制ラグビー ビリヤード ボディビル ブルスポーツ ボウリング キャスティング ダンススポーツ フィールドアーチェリー フィンスイミング フィストボール フライングディスク エアロビクス* | 7人制ラグビー ビリヤード ボディビル ブルスポーツ ボウリング ダンススポーツ フィールドアーチェリー フィンスイミング フィストボール フライングディスク エアロビクス* |
| | 新体操(種目別)* 柔術 空手 コーフボール ライフセービング ネットボール | 新体操(種目別)* 柔術 空手 コーフボール ライフセービング | 新体操(種目別)* 柔術 空手 コーフボール ライフセービング |
| | エアースポーツ パワーリフティング | エアースポーツ パワーリフティング | エアースポーツ パワーリフティング ラケットボール |
| | ローラースポーツ スポーツアクロ体操* | ローラースポーツ スポーツアクロ体操* | ローラースポーツ スポーツアクロ体操* |
| | スカッシュ トランポリン* 綱引き タンブリング* 水上スキー | スカッシュ トランポリン* 綱引き タンブリング* 水上スキー | スカッシュ トランポリン* 綱引き タンブリング* 水上スキー |
| | ウエイトリフティングj女子 | | |
| | | カヌー(ポロ) スポーツクライミング 相撲 | カヌー(ポロ) スポーツクライミング 相撲 |
| 〈公開競技 5〉 | 〈公開競技 5〉 | 〈公開競技 6〉 | 〈公開競技 5〉 |
| 合気道 ペサパロ フロアーボール ミリタリーペンタスロン ボールリヨネーズ | 合気道 綱引き(女子) ビーチハンドボール 相撲 ゲートボール | 合気道 アメリカンフットボール ビーチハンドボール ドラゴンボートレース インドアホッケー モーターサイクリング | 武術 ソフトボール ビーチハンドボール ドラゴンボートレース チュックボール |
| 選手数 1,725名 | 選手数 2,193名 | 選手数 3,205名 | 選手数 2,908名 |

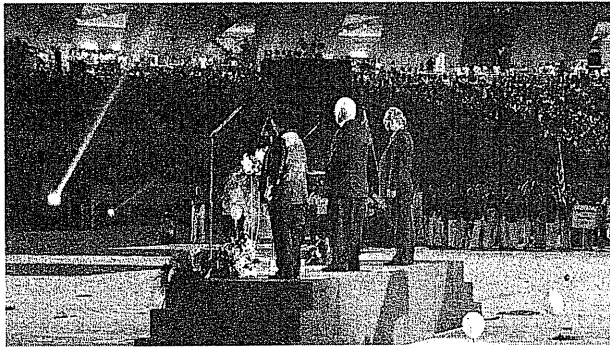


写真1 開会式（左から高雄市長、IWGA 会長、IOC 副会長

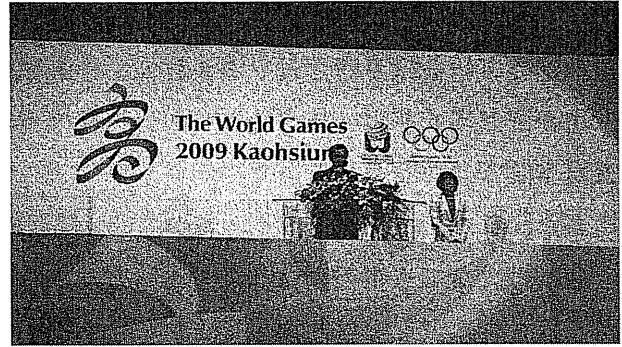


写真2 開会宣言をする中華民国 馬英九 総統



写真3 入場行進する日本選手団



写真4 3万9,500人の観衆を集めたフライングディスク

3. 観客・報道

IOCが後援しているとはいえ、まだ知名度の低いワールドゲームズは、当初台湾でも関心が低かったが、最終的には延べ113万人が参観し、チケット販売収入は6,236万NTD（約1億7,960万円）に達した。メインスタジアム（4万人収容）で開催された開会式・閉会式のチケットが売り切れたほか、同競技場で開催されたフライングディスクのチケットも3万9,500枚、7人制ラグビーも3万5,000枚売れた。

高雄市の発表によると、ワールドゲームズ関連の観光収入も20億NTD（約57億7,000万円）以上で、25万9,000人が高雄市を訪れたと発表され、高雄市の国際的な知名度を高めるのに役立ったといえる。

高雄市新聞処の発表によると、ワールドゲームズを現地取材したメディア関係者は28カ国・地域の136人、開会式を中継した台湾のテレビは6チャンネルの視聴率は5%、延べ800万人が視聴した。海外中継は11カ国・地域であった。閉会式は台湾のチャンネル3が中継し、視聴率は4.11%、延べ488万人が視聴した。競技はESPNを通じて147カ国・地域以上に配信され、ヨーロッパ各国・地域へはEuroSportを通じて中継された。

日本での報道は、大会組織委員会がテレビCMや東京での高雄市長記者会見を開いてPRしたにも関わらず、大会日程が高校野球の日程と重なったこともあり、日本から現地へ記者を派遣した新聞社はほとんどなかった。しかし、朝日・毎日・読売・産経・東京・サンケイスポーツ・西日本・秋田魁新報の各紙が計24の記事を掲載した。テレビ報道は、NHK・TBS・フジ・中部日本放送が報道し、TBSは大会期間中毎朝日本選手の競技結果を報道した。大会の2週間後、

BS-TBSは8月9日(土)・10日(日)の両日1時間ずつ大会の全競技の総集編を番組として全国放送している。ラジオはラジオ日本1社が2回報道した。インターネットによる報道は、14サイトが連日多くのニュースをアップした他、台湾の日本語サイト「台湾通信」が毎日現地取材した日本語でのニュースを掲載した。

また、Uチューブによる試合の中継は一部回線がパンクするほどの人気を博した。

今回の大会でも事前には無名であったワールドゲームズも大会開始と共に多種多様なスポーツが報道され、広く知られる存在になったことは、大きな大会の成果といえよう。

4. 理 念

IOCの後援を受けるワールドゲームズでは、台湾を「中華台北(チャイニーズ・タイペイ)」と呼び、国ではなく「地域」として扱うことが義務づけられていたが、大会開始直前になって「中華民国 馬英九総統」が開会宣言を行うことを決定し、大会中しばしば「中華民国(Republic of China)」の名称を使ったり、中華民国国旗「青天白日満地紅旗」を会場に持ち込むことが行われても中国は表立った批判をすることはなく競技に参加した。ただし、「開会式当日の選手登録手続きが間に合わなかった」「帰国便のスケジュールの関係で」の理由で中華民国 馬英九総統が出席する開会式・閉会式に中国選手は一人も出席しなかった。「ひとつの中国」政策を堅持する中国としては、親中政策をとる馬英九総統の顔を立てつつも筋は通した形となった異例な対応に、台湾の民進党の行った世論調査では「台湾が自ら勝ち取った成果」と答えた人が68.9%、「中国の善意」と答えた人が12.0%であった。

「民族、国家間の紛争や思惑に利用されず、国の政府の意向で選手の大会への参加が禁じられることはワールドゲームズではあってはならない」というワールドゲームズの理念から考えると今回の出来事をどう解釈すべきかは課題である。もし、中国政府がこのワールドゲームズの理念を理解し、あえて直接批判を行わなかったのであれば、開閉会式への不参加も「大人の対応」と考えることもできるかもしれない。

「参加選手は国ではなく、各競技の国際組織(IF)が世界最高レベルの選手を選び、その選手が所属する各国の競技協会に派遣を要請する」「選手宿舎を国別ではなく競技別とし、大会期間中にパーティーを開いて選手間の国際交流を促進する」というワールドゲームズの特徴はまったく変わっていない。IOCとIWGAが調印した「相互協力に関する覚書」には、「IOCは各国オリンピック委員会(NOC)がワールドゲームズに参加する各国代表選手団を支援することを奨励する」など9項目が盛り込まれ、アメリカ・オランダなどのNOCは自国の選手をバックアップし始めたが、参加選手を選ぶのはあくまでIFであり、国ごとに選手団を結成しないことがワールドゲームズの特徴である。しかし、今回の中国選手の開閉会式の不参加には中国政府から何らかの指示があったことは明らかで、今後ワールドゲームズの理念をどう守っていくのかは大きな課題といえる。

もう一つの理念「スポーツの普及振興」については、「世界一を競う公式競技と公開競技の大会

と共に、一般市民の参加を求めるスポーツイベントなどを実施する」という第3回大会以来のワールドゲームズの特徴は今回も生かされた。大会期間中および大会前後、選手が一般市民に指導を行ったり、交流する機会が設けられ、一般市民の競技体験プログラムが実施された。今回もスポーツの普及振興に必要な「見るスポーツ体験」と「するスポーツ体験」を同時に実現させた大会であったといえるであろう。

5. まとめにかえて

アジアで2回目の開催になる第8回ワールドゲームズ高雄大会は、少なくとも(1)今まで知られていなかったスポーツの存在を世界に知らせ、スポーツに対する認識を広げた、(2)スポーツを「見る楽しさ」と同時に「する楽しさ」を味わう機会を提供した、(3)地方都市でも国際的なスポーツ・イベントが開催できることを実証した、(4)これからの大会の成功は行政と民間の協力関係が鍵であり、特に民間ボランティアの存在は不可欠であることを実証した、などの成果があがった、といえる。

次回、初めての南米開催となるコロンビア カリ市での第9回大会でのワールドゲームズ・ムーブメントの健全な発展を期待したい。

引用・参考文献

- 1) (財)秋田ワールドゲームズ2001組織委員会編(2001)第6回ワールドゲームズ公式報告書。(財)秋田ワールドゲームズ2001組織委員会：秋田
- 2) (財)秋田ワールドゲームズ組織委員会編(2001)秋田ワールドゲームズ2001ホームページ(<http://www.wg2001.or.jp>) (財)秋田ワールドゲームズ2001組織委員会：秋田
- 3) 師岡文男(2001)第34回国際スポーツ団体総連合(GAISF)会議報告
IOC, ワールドゲームズ支援の覚書に調印. 指導者のためのスポーツジャーナル 237:30-31
- 4) 師岡文男(1999)ワールドゲームズ その誕生と発展の経緯について. 上智大学体育 32:11-21
- 5) (N)日本ワールドゲームズ協会編(2009)日本ワールドゲームズ協会ホームページ(<http://www.jwga.jp>) (N)日本ワールドゲームズ協会：東京
- 6) 高雄世運組織委員会編(2009)The World Games 2009 Kaohsiung Home Page(<http://www.worldgames2009.tw>) 高雄世運組織委員会：台湾 高雄
- 7) International World Games Association編(2009)World games Home Page(<http://www.worldgames-iwga.org>) IWGA: Colorado Springs, U.S.A.
- 8) 台湾通信編(2009)ライフチャンネルXワールドゲームズ日本語サイト(<http://tatsu-life.com>) 台湾通信：台湾 台北
- 9) (N)日本ワールドゲームズ協会編(2010)第8回ワールドゲームズ2009高雄大会報告書。
(N)日本ワールドゲームズ協会：東京